

## バニラエアの収益性簡易分析

2016年7月30日

黒字化したバニラエアの2015年度収益性などを簡易分析するとともに、競争関係にあるLCC2社と収支・財務状況を比較した。

(数値は、各社や国交省の公表値と、若干の試算を加えたものによる。)

## 1. バニラエアの2015年度収支と旅客収益性指標

① バニラエアの収支； 前年比で大幅増収となり黒字に転じた。

- ・ 営業収益は+77%増の218億円
- ・ 初めて黒字化し、営業利益15億円を計上。  
法人税等の調整があつて、当期利益は24億円。

② バニラエアの旅客収益性指標；

- ・ 供給席数+37%増、旅客数はそれを上回る+48%、搭乗率は向上して85%に。
- ・ 旅客収入単価(付加収入を含む全収入を旅客数で除した)は+19%アップ。
- ・ 座席コストは▲8%低下。
- ・ これによりB/E(採算ライン)は80%を切るようになった。

(1便当りでみると)

- ・ 1便当りの収入は前年比+29%増の198万円、営業利益は14万円。  
搭乗率のアップ(142→154人)と平均収入単価のアップに加え、費用が少なくなったことが効いた。

(内訳別旅客状況)

- ・ 国内線席数+30%に対し、国際線は+47%と大きく上回った。
- ・ 国内線は、低かった搭乗率が大きく改善して85.9%となった。
- ・ 国内線の旅客当り運賃単価(付加収入を含まない国交省数値)は8,012→8,132円と上昇。
- ・ 高かった国際線の搭乗率もさらに改善した。
- ・ その高い搭乗率を維持しながら規模が大きく増えたことが収益性改善に寄与。

## JAMR レポート

《図表1》 バニラエアの収支と旅客収益性の指標

		2014	2015	差	率
<b>営業収益</b>	百万円	12,316	21,796	9,480	177
営業費用	百万円	16,072	20,297	4,225	126
<b>営業利益</b>	百万円	-3,756	1,499	5,255	
当期利益	百万円	-4,046	2,435	6,481	
便数	便	8,040	10,998	2,958	137 (※1)
座席数	千席	1,447	1,980	532	137
旅客数	千人	1,141	1,692	551	148
<b>搭乗率</b>	%	78.8	85.5	6.6	
<b>旅客単価</b>	円	10,793	12,882	2,089	119 (※2)
<b>座席コスト</b>	円	11,105	10,253	-852	92 (※3)
B/E	%	102.9	79.6	-23.3	
<b>1便当り</b>					(※4)
旅客収入	万円/便	153	198	45	129
旅客費用	万円/便	200	185	-15	92
営業利益	万円/便	-47	14	60	
席数	席	180	180	0	100
旅客数	人	142	154	12	108
<b>国内線</b>					
便数	便	4,785	6,217	1,432	130 (※1)
座席数	千席	861	1,119	258	130
旅客数	千人	647	962	315	149
<b>搭乗率</b>	%	75.1	85.9	10.8	
<b>運賃単価</b>	円	8,012	8,132	120	101 (※5)
<b>国際線</b>					
便数	便	3,256	4,781	1,525	147 (※1)
座席数	千席	586	861	275	147
旅客数	千人	494	730	236	148
<b>搭乗率</b>	%	84.3	84.9	0.5	

(※1) 推算値

(※2) 営業収益(含付加収入)÷旅客数

(※3) 営業費用÷座席数

(※4) 収入/費用/旅客数等÷便数(推算値)

(※5) 国交省資料より(除付加収入等)

## JAMR レポート

## 2. 国内LCCの収支・財務比較

バニラエアの実績を、業績好調な Peach と比較するとともに、2015年度業績未判明(6月決算)の Jetstar-Japan については2014年度数値を参考として掲示した。

① バニラエア； 利益計上により累損が▲24億円減少。

流動資産（現預金・業未収入金など）と固定負債（整備引当金等）が増加。

② Peach； 479億円の営業収益で、62億円の営業利益を計上。

累損を解消して、留保利益を抱えるまでになった。

流動資産が266億円と多いことから、手元資金が潤沢なことが伺える。

③ Jetstar-Japan；2014年度では大幅赤字で、期末（2015年6月末）の累損は▲226億円と債務超過寸前、流動資産も少なく資金のひっ迫を伺わせる。

（その後 JAL とカンタスは追加資金を投入している。）

搭乗率、旅客単価ともに改善していることで、2015年度は黒字化したかどうか注目される。

《図表2》国内LCCの収支・財務比較

	バニラエア			Peach	Jetstar-J
	2014	2015	差		
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
営業収益	12,316	21,796	9,480	47,939	29,091
営業費用	16,072	20,297	4,225	41,758	39,820
営業利益	-3,756	1,499	5,255	6,181	-10,729
当期利益	-4,046	2,435	6,481	2,744	-11,101

  

	バニラエア			Peach	Jetstar-J
	2014	2015	差		
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
流動資産	6,762	9,734	2,972	26,552	3,806
固定資産等	637	1,110	473	10,332	6,898
資産合計	7,399	10,844	3,445	36,884	10,704
流動負債	5,942	5,985	43	15,527	10,011
固定負債	203	1,170	967	5,313	279
負債合計	6,145	7,156	1,011	20,840	10,290
資&資剰金	15,000	15,000	0	15,000	23,000
利益剰余金	-13,747	-11,312	2,435	2,040	-22,585
評価換算差額等				-1,036	
純資産合計	1,253	3,688	2,435	16,004	415

以上